

# 一斉



## 成人の節目、教祖140年祭に向けて —第三回ようぼく一斉活動日—

伝道庁管内各地で、第三回ようぼく一斉活動日が開催されました。ハイサクラメント地区（左上）、ボイルハイツ地区（左下）、タコマ地区（右上）、オレンジ地区（右下）。10頁に関連写真

天理教アメリカ伝道庁

No.924

NOVEMBER

2024



tenrikyo.com



# つらつらせんがく 熟々浅学



## —「正義」とは？—

先月は本部で秋季大祭が勤められました。ご存知のように立教の元一日を記念して勤められたのですが、私たちは立教時の親神様の思召を思い出し、心新たに、改めてたすけの御用に励むことをお誓いすることが大切です。

また、先月 27 日に天理教青年会総会が開催されました。年に一度、全世界の青年会員がちばに結集し、勇ませ合い、励まし合う機会、また“あらきとうりよう”の自覚を再認識する機会であったと思います。個人的にはアメリカ青年会員の面々に今後の更なる活躍に期待したいと思います。

今月は伝道庁にて「ようぼくの集い」を開催しますが、教友が勇み立ち、教祖 140 年祭年祭活動に繋がれば嬉しく思います。

さて、これから書くことは“漠然”としていて、私の考えが纏まっている訳ではありません。また、人々にはさまざまな考え方、受け取り方、悟り方があり、私の考えと違う人がおられると思いますので、そのような人には心寛容に読んでもらえればと、先にお願ひしておきます。

「正義」とは何なのかと考えることがあります。

「正義感 (sense of justice)」という言葉がありますが、この意味は「不正を憎み、正義を尊ぶ気持ち」ということだそうです。その「不正」や「正義」の判断基準は何なのかと考えますと、どうも人の感情によって判断が左右されることがあるのではないかと思えるのです。

「正義」の定義をインターネットで調べますと、次のように書かれてあります。

1. 人の道にかなっていて正しいこと。「一を貫く」「一の味方」
2. 正しい意義。また、正しい理解。「四書一」
3. 人間の社会行動の評価基準で、その違反に対し厳格な制裁を伴う規範。

類語：道義、人道、人倫、大道、義

(出典：デジタル大辞泉【小学館】)

「正義」を Wikipedia で調べますと、次のように書かれてありました。

正義 (せいぎ、英: justice、仏: justice、独: Gerechtigkeit、羅: iustitia、希: δικαιοσύνη) は、明治以降「義」に代わって使用され、倫理、合理性、法律、自然法、宗教、公正などに基づく道徳的な正しさに関する概念である。対義語は「不義」。正義の実質的な内容を探究する学問分野は正義論と呼ばれる。広義すなわち日本語の日常的な意味においては、道理に適った正しいこと全般を意味する。

とあります。そして、報復的正義 (retributive justice)、修復的正義 (restorative justice)、配分的正義 (distributive justice)、匡正的正義 (corrective justice) と「正義」の分類が書かれてあります。

このように「正義」の英訳は「Justice」になるようです。アメリカの「司法省」の英訳は「Department of Justice」ですが、その観点から法律が「正義」の判断基準となると思えます。人間の作った法律によって「正義」か「不義」かの判断をすることになりますので、「正義」か否かは人間の判断に委ねられていると言ってもよいかもしれません。

「Justice」の日本語訳は「正義」とされますが、「公正」が本来の「Justice」の意味なのではないかと思えます。

ここで私が考えている「正義」とは、「Justice」ではなく、日本で言う「義（ぎ）」に近いと思います。「義」の英訳は文脈によって変化するようで「righteousness」、「duty」、「morality」と訳されるようです。「義」とは何なのか。インターネットでは以下のように定義されていました。

1. 儒教における五常の一。人として守るべき正しい道。道義。「仁・一・礼・智・信」
2. 道理。条理。
3. 意味。意義。「読書百遍（ひゃっぺん）一自（おのずか）ら見（あらわ）る」
4. 教え。教義。
5. 血縁上のものでない義理の関係。「一を結ぶ」（出典:デジタル大辞泉【学館】）

「義」を Wikipedia で調べますと、次のように書かれてあります。

義（ぎ）は、人間の行動・思想・道徳で、「よい」「ただし」とされる概念である。

「義」はかなり抽象的な言葉なのかもしれませんが、日本社会での「常識」に近い意味ではないかと思えますし、一般的に2の「道理。条理」で使われるイメージがあるのではないのでしょうか。

Wikipedia の内容は、あまり信用できないのかもしれませんが、「正義」にしても「義」にしても人間が作ったもの、人間社会内での合意で得られた共通観念、思想というべきものだろうということは理解できます。

ここで私が言いたいのは、「正義」にしても「義」にしても、あくまでも人間が作った定義、観念、思想ではないかということです。

ですから、「正義」とか「義」だとかを“振りかざして”物事・事柄の善し悪しを言う人、決める人が世の中には居ますが、人が作った「正義」や「義」ですから、時代によって変化することがあります。「正義」とか「義」の言葉を盾にして「自分が正しい」と主張する人が居ますが、正しくないこともあるのではないのでしょうか。

例えば、戦争や紛争を起こした当事者た

ちは何かと理由を作り、「これが正義だ」、「これこそ義だ」と宣（のたま）うことがあります。また、ある時代の社会では「正義」と認知されていても、後年検証した時に「正義」ではないことも往々にしてあると思うのです。ですから、「正義だ」とか「義だ」と言って正しいように見えても、正しくないことがあると思うのです。

稿本天理教教祖伝逸話に「天の定規」（31）の逸話があることをご存知でしょう。教祖は飯降伊蔵先生に山から切って柱を作るようにと仰せられ、できあがった柱に定規をあてるように飯降先生に言われて「隙がありませんか」と尋ねられたところ、たしかに定規と柱の間に隙があり、そこで教祖は「その通り、世界の人が皆、真っすぐやと思っている事でも、天の定規にあてたら、皆、狂いがありますのやで」と仰せられたのです。

天理教を信仰しているお互いは、親神様の教えを基準に、また、教祖のひながたを基準にして物事を判断することができます。つまり、人によって作られた「正義」や「義」ではなく、おふでさきに、

このよふをはじめた神のゆう事に

せんにも一つもちがう事なし 1 - 43

と仰せられる親神様の御教えを基準として、物事の善し悪しの判断ができるのです。

ですので、私たちが何かの問題に直面した時の判断の基準となるのは教えです。「正義」や「義」が間違いとは言いませんが、「正義だ」、「義だ」と言っても、人間の作った「正義」や「義」で物事を判断するので間違っていることがあると思うのです。そのことを肝に銘じておかないと間違った判断をすることがあるのではないのでしょうか。

皆さんはどのように思われるのでしょうか。

深谷 洋

# 立教 187 年秋季大祭祭文

この神床にお鎮まりくださいます親神天理王命の御前に天理教アメリカ伝道庁長深谷洋慎んで申し上げます。

親神様には、陽気ぐらしをするのを見て共に楽しみたいとの思召により、この世人間をお創めくださり、天保九年十月二十六日、約束の年限の到来と共に、宿し込みのいんねんある元の屋敷に天降られて、教祖をやしろにこの世の表にお現れになり、よろづ委細の元の理を明かし、ちばを定め、つとめを教え、たすけ一条の道をお啓きくださいました。以来、神直々の御教えは世界に伸び広がり、このアメリカ、カナダの地にも、教祖のひながたを慕い、たすけの御用に勤しむ者をお与えいただき、今日の姿をお見せいただいておりますことは、誠に有難く勿体ない極みでございます。私共は、御恩報じを念じて、それぞれの持ち場立場で、道の御用をつとめさせていただいておりますが、その中にもこの月は、教祖をやしろとしてこの道をお啓きくださいました尊い月に当たりますので、立教に込められた親神様の御心に改めて思いを致し、只今より、ちばの理を頂戴して、おつとめ奉仕者一同、喜び心と共に、陽気に座りづとめ、てをどりをつとめて、当伝道庁の秋季大祭を執り行わせていただきます。

御前には、今日の日を待ちわびて参集しましたよふぼく、信者一同が、同じ思いで伏し拝み、日頃の御高恩に御礼申し上げ、尚も変わらぬ親心にお縋りたいと、勇んでお歌を唱和する真実の状をも御覧くださいます、親神様にもお勇みくださいますようお願い申し上げます。

今月は本部秋季大祭参拝のために、管内より教会長始め、多くの教友が帰参しますが、道中無事にお連れ通りいただき、ちばの理を頂戴して、それぞれの土地所に戻りましたからは、勇んで道の御用をつとめられますようお願い申し上げます。

来月には伝道庁にてよふぼくの集いを開催予定ですが、大勢の教友が参加し、勇ませ合う機会となりますようお願い申し上げます。

私共は、真柱様が御発布くださった論達第四号の思召を改めて心に治め直し、年祭活動二年目の残りの時句を勇んで通り、世界を治める御教えを広め、また、次代を担う者たちに道を伝える覚悟でございます。何卒、親神様には、私共の誠真実の心定めをもお受け取りくださいます、願う誠の心通りの自由自在の御守護を賜り、一れつ兄弟姉妹が互いに手を取り合って暮らせる陽気ぐらしの世の状に、一日でも早く立て替わりますよう御守護の程を、一同と共に慎んでお願い申し上げます。

# 秋季大祭神殿講話

アメリカ伝道庁長  
深谷 洋

只今は結構に、立教 187 年アメリカ伝道庁秋季大祭を、皆様と賑やかに勤め終えることができました、大変嬉しく思っております。

本年 6 月 30 日には、真柱様のご名代として中山大亮様、また真柱夫人の中山はるえ様のご臨席を賜り、当伝道庁創立 90 周年記念祭を滞りなく勤め終えることができました。これも皆様のご尽力があつてのことでした。高い所からではございますが、改めて御礼申し上げます。有難うございました。

また、その前日の 29 日には、アメリカ婦人会とアメリカ青年会の創立 70 周年記念合同総会を、両会長様をお迎えして執り行うことができました。両会の皆様に、改めてお祝い申し上げます。

本年も早いもので、既に 10 月も後半となり、教祖 140 年祭年祭活動 2 年目も終盤となりました。年祭まで約 1 年 3 ヶ月となりましたこの時旬、更に布教活動を活発に推進して行かなくてはならない時期であります。

本日、伝道庁秋季大祭を終えるにあたり、思いますところをお話して、教祖年祭までの残りの期間をどのように通らせていただければよいのかを相談させていただき、共々に勇んで通りたいと思っております。暫くの間、



お付き合いくださいますようお願い致します。

伝道庁秋季大祭は、教祖が月日のやしろとお定まりくださった立教の元一日である天保 9 年 10 月 26 日を記念して勤める本部秋季大祭のかぐらづとめの理を受けて勤めているのであります。

親神様は教祖のお口を通じて、

「我は元の神・実の神である。この屋敷にいんねんあり。このたび、世界一れつをたすけるために天降つた。みきを神のやしろに貰い受けたい。」

(天理教教典第 1 章「おやさま」、3 頁)

と、人間に対する親神様の最初のお言葉を発せられました。このお言葉には何故親神様が天降つたのかという目的が明示されてあります。それは「世界一れつをたすけるために天降つた」と仰せられている部分であります。

天理教が始まったのは、この「世界一れつをたすけるため」であり、言い換えれば、この世界を陽気ぐらし世界へと立て替えるために天理教が始まったと申してもよいのであります。

天理教教典第三章「元の理」に、

「この世の元初りは、どろ海であつた。月日親神は、この混沌たる様を味気なく思召し、人間を造り、その陽気ぐらしするのを見て、ともに楽しもうと思いつかれた。」

(天理教教典第3章「元の理」、25頁)とありますように、親神様は人間が陽気ぐらしするのを見て共に楽しみたいと仰せになっておられるのでありますから、この世を陽気ぐらし世界に立て替えることが、私たち天理教を信仰している者の使命であります。信仰の年限の長短や深浅に拘わらず、天理教の教えを信仰している者であれば、陽気ぐらし世界を目指すことが大切なのであります。

おさしづに、

「二十六日というは、始めた理と治まりた理と、理は一つである。(中略)さあ／＼二十六日は夜に出て昼に治まりた理」

(おさしづ、明治29年2月29日)と、立教の元一日と教祖が現身を隠された日は、理が一つであると仰せられています。

「夜に出て」とは、天保9年10月26日の3日前であります23日夜に、教祖の腰、教祖の夫善兵衛様の眼、そして長男秀司様の足と、3人が揃って悩みとなったことを指しているのであります。この三人のお悩みのため、翌24

日朝から寄せ加持が行われることになり、親神様と人間との三日間の押し問答を経て、10月26日の午前8時頃の夫善兵衛様の「みきを差し上げます」とのお言葉により立教となったのでありますから、その観点から親神様が夜に出られたということになるのであります。「昼に治まりた」とは、教祖が私たち人間の心の成人を促すために、また、存命同様世界たすけに踏み出されるために、明治20年陰暦正月26日午後2時頃に現身をお隠しになられたことを指しているのであります。

先程のおさしづは、立教の元一日でのお言葉にある「世界一れつをたすけるために天降った」と、教祖が現身をお隠しになられた直後のおさしづに「今からたすけするのやで」と仰せられている思召は同じであることをお示しくださっているのであります。

ですから、立教の元一日である天保9年10月26日から教祖が現身をお隠しになられた明治20年陰暦正月26日までの期間は、同じ理で連綿と繋がっていると申してもよいのであります。そしてその期間は教祖のひながたの道でありますから、先程のおさしづは、教祖のひながたの道を意味しているとも言えるのかもしれませんが。

教祖のひながたの道は、世界たすけの道でありました。世界一れつをたすけることが教祖の目的であり、そのためにさまざまな方法を教えてくださったのであります。

「つとめ」と「さづけ」は、教祖が世界一れつをたすけるために、また、この世を陽気ぐ

らし世界へと立て替えるために教えてくださった教えであります。このおつとめを勤めることによって、世界の治まり、人々のたすかりを願うのであり、おさづけを取り次いで身上者のたすかりを願うのであります。私たちは、国々所々でかぐらづとめの理を頂戴しておつとめを勤め、おさづけの理を取り次ぎ、この世を陽気ぐらしへと立て替えて行く道を歩むのであります。つまり、私たちの使命は、陽気ぐらし世界実現のための人だすけとも言えるのであります。

現在は教祖140年祭まで約1年3ヶ月となっている時句であります。

真柱様は2年前の2022年10月26日の本部秋季大祭において、諭達第4号をご発布くださされて、教祖140年祭に向けての指針をお示しく下さいました。

その諭達第4号に、

「よふぼく一人ひとりが教祖の道具衆としての自覚を高め、仕切って成人の歩みを進めることが、教祖年祭を勤める意義である。」

(諭達第4号、2頁)

と、何故、教祖年祭を勤めるのかをご教示くださされています。そして、

「教祖年祭への三年千日は、ひながたを目標に教えを実践し、たすけ一条の歩みを活発に推し進めるときである。」

(諭達第4号、3頁)

と、教祖の年祭活動期間中の私たちの心の置き所をお示しく下さされています。

また、諭達第4号では、三年千日の年祭活



動期間、よふぼくは何を実行して行くべきなのかを丁寧にお教えくださされています。それは、

「よふぼくは、進んで教会に足を運び、日頃からひのきしんに励み、家庭や職場など身近なところから、にをいがけを心掛けよう。身上、事情で悩む人々には、親身に寄り添い、おつとめで治まりを願い、病む者にはおさづけを取り次ぎ、真にたすかる道があることを伝えよう。」

(諭達第4号、5-6頁)

と、仰せられているところであります。ここに私たちよふぼくの年祭活動での具体的な活動が示されているのであります。

もちろん、これらの活動は年祭期間中だけのことではありません。いつでも実行すべきことではありますが、年祭に向けては特に三年千日と期間を仕切り、そして「たすけ一条の歩みを活発に推し進める」ことが肝心なのであります。

真柱様は当伝道庁創立90周年記念祭のメッ

セージで三年千日の通り方について次のよう  
にお述べになっておられます。

「仕事や様々なことがある日常の中に暮ら  
している私たちは、ともすれば、ひながたのこ  
とを、忘れてしまうことはなくても、考える  
ことは後回しになりやすいのであります。し  
かしながら、年祭に向かうこの三年千日の期  
間はそうした日々とは違って、日頃からひな  
がたに籠もる親心を思案する時間を増やし、  
思召にふさわしい心が使えるように、教えを  
実行する努力を重ねるのであって、これが、  
教祖の年祭に向かう三年千日の道の通り方  
であります。時には、思わぬふしに遭遇する  
ことがあるかもしれませんが、そうした中を、  
ひながたを思って、親に凭れて勇んで通れば、  
教祖は、それを見て、ご安心下さるでありま  
しょうし、又、その皆さんの勇んで通る姿が、  
新しくこの道にお引き寄せ頂く人を御守護頂  
けることに繋がると思うのであります。」

(2024年7月号「一れつ」、6頁)  
と、お諭しく下さっています。それぞれでこ  
の真柱様の思召もよく思案していただきたい  
と存じます。

また、年祭活動期間中、  
「親から子、子から孫へと引き継いでいく  
一步一步の積み重ねが、末代へと続く道とな  
るのである。」

(論達第4号、6頁)  
と、論達第4号に仰せいただくように、末代  
へと道を繋げられるよう次世代に御教えを伝  
えることも肝心であります。

さて、教祖年祭は、人間が故人を偲んでつ  
とめる1年祭、5年祭などの年祭とは意味が  
違います。

真柱様は、当伝道庁創立90周年記念祭の  
メッセージで次のようにお諭しく下さいま  
した。

「教祖の年祭は、故人を偲んで勤める人間の  
年祭と違って、年祭を親神様が望まれる陽気  
ぐらしの世界へ辿り着くための一つの節目と  
捉え、その節目毎に成人の姿へ近づいていく  
様子を教祖にご覧頂いてご安心頂きたい、と  
いう私たちの決意をもって勤めるものであり  
ます。」

(2024年7月号「一れつ」、5頁)

教祖年祭は私たちが成人する旬であります。  
教祖にお喜びいただきたいという思いで年祭  
活動を実行する中に、心の成人が進むのであ  
ります。そして、その成人した姿を教祖にご  
覧いただくのが教祖年祭の日であります。

このように考えますと、教祖140年祭が執  
り行われる立教189年(2026年)1月26日  
に挙っておぢばがえりしなくてはならないと  
思うのであります。教祖に年祭活動期間中に  
成人した私たちの姿をご覧いただいて、教祖  
に少しでもお喜びいただけるように、ぢばに  
帰らせていただくことが肝心であると思うの  
です。

別席のお話に、  
「世界からおぢば、親のそばと言うて慕うて  
帰る子供に隔てなく、お待ちかねになっ  
ているのが親のお心であります。この親を慕うて



帰る子供の真実が、常に隔てなく子供の上を  
思うてその帰りをお待ち下される親のお心に  
通いまして、こゝに珍しいたすけをお見せ下  
され、自由の御守護をなし下されるのであり  
ますから、この元のちばへ真実の心をはこぶ  
のが肝心であります。」

とあります。ちばへ帰らせていただき、ち  
ばにお鎮まりくだされている親神様、そし  
て教祖に心を繋がせていただくことが大切  
なのであります。真実の心をちばに運ばせ  
ていただくのであります。そうすれば、自  
由の御守護をくださると仰せいただいでい  
るのであります。

真柱様は諭達第4号を、  
「御存命でお働き下さる教祖にご安心頂き、  
お喜び頂きたい。」

(諭達第4号、7頁)

と、この言葉で結ばれておられますが、その  
真柱様の思いを素直に受け取っていただきた  
いのであります。

教祖が私たちに御教えを伝えられたご恩に  
対して、また、現在も世界たすけの先頭に立っ  
てお働きくださされているご恩に対して「仕切っ  
て成人の歩みを進めること」を心掛け、教祖  
にご安心いただけるように、お喜びいただい  
けるように、これから2026年1月26日の教祖  
140年祭までの期間、年祭活動を推進してい  
たきたいと思うのであります。

皆さんが所属する直属教会、或いは所属教  
会が定めている「年祭活動の方針」と「具  
体的な目標」があると思いますので、年祭活動

期間中の現在、それらを実行していただき  
たいのであります。「たすけの旬」、「成人の旬」  
とお聞かせいただいている旬でありますから、  
この旬を活かせるよう、教祖140年祭までの  
残りの期間を勇んでお通りいただきたいので  
あります。

そして、教祖140年祭には、アメリカ伝道  
庁管内より、教友を始め、天理教に入信した  
ばかりの方であっても、未信者の方であって  
も、大勢の人々におちばがえりしていただき  
たいと思うのであります。人類の故郷に、“を  
や”を慕う真実の心を運んで教祖にお喜びい  
たきたいと思うのであります。その心でおち  
ばがえりすれば、「珍しいたすけをお見せ下  
され、自由の御守護をなし下される」のであり  
ますから、それを目指していただきたいと思  
うのであります。

教祖140年祭までの残りの年祭活動の期間  
を、諭達第4号に込められてあります真柱様  
の思召に沿ってにをいかけ、おたすけに励み、  
仕切って、そして勇んでお通りいただきます  
ようお願いしまして、本日の話を終えたいと  
存じます。

ご清聴有難うございました。





## 伝道庁連絡



### 秋季大祭

祭主 庁長  
 扨者 中富淳次郎 林孝彦  
 賛者 文岡邦人 丹羽ハミルトン  
 指図方 奥井俊彦  
 神殿講話 庁長（英）

### 教会事情

加奈陀教会：臨時祭典願、恒例祭日臨時変更願  
 おはこび：2024年4月18日  
 創立90周年記念祭：2024年12月1日  
 ブラザーフード教会：任命願、臨時祭典願  
 おはこび予定：2024年11月26日  
 後任教会長：ブラウン・レイモンド・ジェームズ  
 奉告祭：2025年2月8日  
 サンフランシスコ教会：移転願、臨時祭典願  
 おはこび予定：2025年1月26日  
 鎮座祭：2025年1月31日  
 奉告祭：2025年2月1日  
 雲雀ヶ丘布教所：布教所移転  
 兵庫県神戸市に移転しました。

### よふぼくの集い

11月16日（土）、午後2時30分から4時30分までよふぼくの集いを開催しました。夕勤後には懇親会が行われました。

### TSA 冬期練成会

TSA 冬季練成会は、12月26日（木）～29日（日）の日程で開催されます。申込用紙は今月配布されているので、伝道庁のウェブサイトでも入手可能です。申込締切り：12月8日

### 年末年始行事予定

12月26日（木）の選擇式後、午後12時30分より伝道庁年末大掃除を行います。大掃除のお手伝いのできる方は、また、同日の昼食を希望される方は、11月30日（土）までに伝道庁にご連絡下さい。12月28日（土）は餅つきを行う予定です。伝道庁近郊の皆さんのひのきしんをお願い致します。また、元旦祭は、1月1日（水）午前7時（午前6時40分より開扉・献饌開始）より執り行いますので、伝道庁近隣在住のおつとめ奉仕者で、おつとめ役割をとめられない方は11月30日（土）までに伝道庁にお知らせ下さい。

### 修養科英語クラス

修養科英語クラスが来年3月末から3ヶ月間、おちばにて開講される予定です。日本国査証の必要な志願者は、査証取得に時間がかかりますので、お早めに伝道庁にお知らせ下さい。尚、何らかの理由で修養科英語クラス開講の中止、また査証取得ができない場合がありますので、ご了承下さい。

### 全教一斉ひのきしんデー

来年の全教一斉ひのきしんデーの計画を各地区にてお願いいたします。各地区担当者の方への計画書用紙を配布しますので、12月26日までに伝道庁に提出して下さい。

### 一れつ会特別扶養生募集

2025年大学入学予定者に対して、「一れつ会特別扶養」の募集をします。締切は12月31日です。

### 祭典役割

祭典参拝の有無、或いは変更は、参拝予定月の前月月末までに伝道庁に連絡して下さい。例えば、12月月次祭参拝の有無に関しては、今月末（11月30日）までに最終連絡を下さいますようお願い致します。

## 各会連絡

### 教化育成委員会

- ・2025年度のスリーデーコースは、2月21日（金）～23日（日）の日程で開催されます。英語コースは4名以上の申し込み、スペイン語コースは2名以上の申し込みがある場合に開催されます。
- ・おやさと練成会
  - ※2025年度のおやさと練成会対象者に、おやさと練成会事前講習受講の案内の連絡をしています。
  - ※おやさと練成会事前講習は、12月26日（木）～29日（日）の日程で開催されます。
  - ※おやさと練成会事前講習（12/26～29）と、2025年おやさと練成会（7月）の女性カウンセラーを探しています。参加可能な方がおられましたら、おやさと練成会委員までお知らせ下さい。
  - ※今年のおやさと練成会事前講習は、TSA 冬季練成会のお楽しみ行事にも参加できるよ

う工夫し、学生が同年代の学生と絆を深められるようなスケジュールを計画しています。

※土手ウェスリー氏が出直されたことから、「かしもの、かりもの」として、ピア・グループ・サポートを行う予定です。

- ・TSA 冬季錬成会は、12月26日(木)～29日(日)の日程で開催されます。

## 広報委員会

・教祖140年祭に向けた活動のアイデアを管内の方々が共有できるようにとの思いで、実際に活動している方々の情報を「一れつ・ニュースレター」に連載しています。つきましては、各教会・布教所・地区、また身の周りの方々の活動情報・写真等の提供をお願い致します。

情報提供先

川上 kamishuyo@hotmail.com

林 (takhayashi@gmail.com)】

- ・90周年記念祭から今月まで展示していた「90年の歩み：写真展」は、ウェブサイトへの掲載を検討中です。
- ・伝道庁ホームページ  
※伝道庁での祭儀式練習模様の動画が視聴できるようになりました。祭儀式を勤められる先生方は参考にして下さい。

## 翻訳委員会

- ・海外部翻訳課の翻訳会議が、11月4～8日の期間でハワイ伝道庁にて開催されました。
- ・英語SDM翻訳会議が、10月29～11月2日の期間でハワイ伝道庁にて開催されました。
- ・再翻訳された稿本教祖伝逸話編が、教祖140年祭前に出版される予定です。

## Future Path 委員会

- ・2025年に天理教原典の勉強会を開催予定。

## 婦人会

- ・天理教婦人会総会  
～全ての会員がおぢばへ人を誘っておぢばへ～  
2025年4月19日(土)  
午前9時30分より 於 本部中庭
- ・別席強調月間  
立教188年3月1日～4月30日
- ・アメリカ婦人会総会  
2025年5月17日(土) 於 伝道庁
- ・年末伝道庁行事ひのきしん  
12月26日(木) 拝式後伝道庁大掃除  
12月28日(土) おもちつき  
12月30日(月) おせち料理準備

12月31日(火) おせち料理準備

## 少年会

- ・2025年度は少年会総会を6月14日に開催します。また、6月にはキャンプを計画しています。
- ・鼓笛隊員募集中：道の友と一緒に「一手一つ」の鼓笛活動をしませんか？たすけあいや、人のために尽くす喜びを学べる活動を行ってまいります。詳細は【moto1884@gmail.com】まで。
- ・少年会員に教祖のお話をしましょう。親子ぐるみで教会に参拝し、ひのきしんをさせていただきます。
- ・新生児や転入された少年会委員がおられましたら、上記メールアドレスまでお知らせください。

## NYセンター

- ・9/21 岩清水柊さん(南紀・NY富中)が3ヶ月の予定でセンター青年づとめ中
- ・11/24 青年会主催 教理勉強会とスポーツイベント
- ・12/15 婦人会主催：ホリデーバザー

## ようぼく一斉活動日



ニューヨーク地区 ↑ ↓



イーストサンゲーブル地区



TENRIKYO MISSION HEADQUARTERS IN AMERICA  
2727 EAST FIRST STREET  
LOS ANGELES, CA 90033

NON-PROFIT ORG.

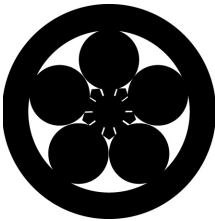
U.S.POSTAGE  
PAID

LOS ANGELES. CA  
PERMIT NO.30002

CHANGE SERVICE REQUESTED

---

## THE JOYOUS LIFE



**TENRIKYO** came into existence on October 26, 1838, when God the Parent, Tenri-O-no-Mikoto, became revealed through Oyasama, Miki Nakayama, to save all humankind. God the Parent is the original and true Parent who not only created humankind but has nurtured and protected human beings ever since.

God the Parent created humankind so that by seeing us live the Joyous Life, God could share in our joy. The living of the Joyous Life is, therefore, the purpose of our existence. Since God the Parent is our Parent, we are all God's children, and thus we could realize that we are all brothers and sisters.

“With human beings:the body is a thing lent by God, a thing borrowed.  
The mind alone is yours.”  
Osashizu:June 1, 1889

We are taught that our bodies are borrowed from God the Parent and only our minds belong to us and, by the proper use of our minds, we will be able to live the Joyous Life.